

殺虫剤

技術資料

野菜・果樹・花の害虫に

- アブラムシに殺虫持続効果2倍アップ（当社従来品比）
- カメムシにも！

ベニカ® 水溶剤

Q & A



商 品 名	ベニカ® 水溶剤
登録番号	農林水産省登録 第 21501 号
成分 (含有量)	クロチアニジン 16.0%
性 状	青緑色水溶性細粒
種 類 名	クロチアニジン水溶剤
容 量	0.5g×10 袋入

（ベニカは登録商標）



CONTENTS

Q1. ベニカ®水溶剤の特長を教えてください。	3
Q2. 有効成分について教えてください。	4
Q3. 登録内容を教えてください。	4
Q4. 害虫に対する効果を教えてください。	7
Q5. 人畜や環境に対する安全性情報を教えてください。	9
Q6. 使用上の注意点があれば教えてください。	10
(委託試験成績の紹介)	11

Q1 ベニカ®水溶剤の特長を教えてください。

- 野菜・果樹・花など幅広い植物に使用できます。野菜のトマト、きゅうり、なすをはじめ、果樹では、うめ、かき、かんきつ、ブルーベリー、オリーブまで幅広く使えます。
- 有効成分が葉や茎から吸収されて植物体内にゆきわたり、殺虫効果が持続する(アブラムシで約1カ月)すぐれた浸透移行性殺虫剤です。また、有効成分は散布後に伸長した新芽や直接薬剤がかからない葉裏にも移行して効果を現します。
- 植物の汁を吸う害虫(アブラムシ、コナジラミ、カイガラムシ、カメムシ等)はもとより、葉を食害する害虫(ケムシ等)や甲虫類(カミキリムシ、コガネムシ等)にも優れた防除効果を現します。
- 従来の薬剤に抵抗性を持った害虫にも新しい作用性によって高い効果を発揮します。
- 粉立ちが少なく水に溶けやすく扱いやすい顆粒水溶剤です。



トマト



ミニトマト



なす



ピーマン



きゅうり



えだまめ



ブロッコリー



ねぎ



チンゲンサイ



かぼちゃ



すいか



かき



かんきつ



もも



うめ



ブルーベリー



オリーブ



ブドウ

Q2

有効成分について教えてください。

接触効果と浸透移行性による効果の持続性があります。

殺虫成分

クロチアニジン

接触効果

▶ すばやく退治

浸透移行性

▶ 効果の持続性

住友化学が開発したネオニコチノイド系の殺虫剤です。植物体内への浸透移行性があり、効果が持続します。

- 有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系の各種殺虫剤に対し感受性が低下した害虫にも高い効果を現します。
- 接触剤の作用に加え、食毒剤としての作用があります。
- 浸透移行性があり、茎葉から薬剤が植物体内に吸収され、植物全体に移行し、効果の持続性にすぐれます。
- 殺虫スペクトラムが広く半翅目(アブラムシ類、カメムシ類など)、双翅目(ハモグリバエなど)、甲虫目(コガネムシ類など)、チョウ目(ケムシなど)、アザミウマ目(アザミウマ類など)、直翅目(イナゴなど)の各種害虫にすぐれた防除効果を発揮します。

Q3

登録内容を教えてください。

登録内容は以下の通りです。

■果樹、野菜の作物登録が豊富で、しかも果樹には近年発生の多いカメムシ類の登録があります。

2011年10月現在、野菜で28品目、果樹で17品目の登録があります。

(効果のある害虫) 吸汁性害虫・・・アブラムシ類、カメムシ類、コナジラミ類、コナカイガラムシ類、ツノロウムシ、アザミウマ類、ツツジグンバイなど

食害性害虫・・・ケムシ類、ハモグリバエ類、ミカンハモグリガ、テントウムシダマシ類、ゴマダラカミキリ、カキノヘタムシガ、シンクイムシ類、コガネムシ類、ウリハムシ、アオムシ、コナガ、アゲハ類、オリーブアナアキゾウムシなど



アブラムシ



カメムシ



コナジラミ



アザミウマ



ツツジグンバイ



アメリカシロヒトリ



チャドクガ



ハモグリバエ



テントウムシダマシ



カキノヘタムシガ



コガネムシ



ウリハムシ

【適用害虫と使用方法】

※印は収穫物への残留回避のため、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数※	使用方法
トマト ミニトマト	ハモグリバエ類	2,000倍	100～300ℓ/10a (100～300ml/m ²)	収穫前日まで	本剤：3回以内、クロチアニジン：4回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	散布
		アブラムシ類				
	コナジラミ類					
なす	アブラムシ類	2,000～4,000倍				
	コナジラミ類					
	マメハモグリバエ	2,000倍				
ミナミキイロアザミウマ						
	ハモグリバエ類	2,000～4,000倍				
きゅうり	アブラムシ類					
	コナジラミ類					
	ミナミキイロアザミウマ					
	コナジラミ類	2,000倍				
メロン	ミナミキイロアザミウマ					
	トマトハモグリバエ	4,000倍				
	アブラムシ類	2,000倍				
すいか	ミナミキイロアザミウマ	2,000倍				
	ウリハムシ					
かぼちゃ	アブラムシ類	2,000～4,000倍		収穫3日前まで	本剤：3回以内、クロチアニジン：4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	
とうがん	ミナミキイロアザミウマ	2,000倍				
ピーマン	アブラムシ類	2,000～4,000倍		収穫前日まで	本剤：2回以内、クロチアニジン：3回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
	コナジラミ類					
オクラ	アブラムシ類	2,000倍		収穫3日前まで	本剤：2回以内、クロチアニジン：3回以内(は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内) 本剤：3回以内、クロチアニジン：4回以内(は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の植穴処理土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)	
キャベツ	アオムシ コナガ					
ブロッコリー	アブラムシ類					
レタス	ナモグリバエ	2,000倍				
	アブラムシ類	2,000～4,000倍				
非結球レタス	アブラムシ類	2,000倍				
	ナモグリバエ					
ねぎ	ネギアザミウマ	2,000～4,000倍				
	ネギハモグリバエ					
にら	アブラムシ類	2,000倍				
	ネギアザミウマ					
チンゲンサイ	アブラムシ類	2,000倍		収穫14日前まで	3回以内	
みずな	アブラムシ類					
だいこん	アブラムシ類	2,000～4,000倍		収穫7日前まで	本剤：2回以内、クロチアニジン：3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内) 本剤：3回以内、クロチアニジン：4回以内(植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)	
ばれいしょ	アブラムシ類	4,000倍				
	テントウムシダマシ類	2,000～4,000倍		収穫前日まで	3回以内	
アスパラガス	アブラムシ類					
	ネギアザミウマ					
	ジュウホシクビナガハムシ					
えだまめ	アブラムシ類			収穫3日まで		
	カメムシ類					
	フタスジヒメハムシ					
豆類(種実、ただし、だいず、らっかせいを除く)	アブラムシ類	2,000倍		収穫7日前まで	本剤：3回以内、クロチアニジン：4回以内(は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	
だいず	アブラムシ類					
	マメシクイガ					
	カメムシ類					
	フタスジヒメハムシ	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内		
にがうり	ミナミキイロアザミウマ					
食用へちま	アブラムシ類	2,000倍				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数※	使用方法
みょうが(花穂)	ナスコナカイガラムシ	2,000倍	100～300ℓ/10a (100～300ml/m ²)	収穫前日まで	3 回以内	散布、但し花穂の発 生期にはマルチフィ ルム被覆により散布 液が直接花穂に飛散 しない状態で使用する
みょうが(茎葉)				みょうが(花穂)の収 穫前日まで 但し、花穂を 収穫しない場合にあつ ては開花期終了まで		
茶	チャトゲコナジラミ	2,000～4,000倍	200～400ℓ/10a (200～400ml/m ²)	摘採 7 日前まで	1 回	散布
	チャノキイロアザミウ マ、チャノミドリヒメヨ コバイ、チャノホソガ					
	コミカンアブラムシ					
りんご	アブラムシ類、カメムシ類、 コナカイガラムシ類、ケム シ類、キンモンホソガ、ギン モンハモグリガ、シクイム シ類、リンゴワタムシ	2,000～4,000倍	200～700ℓ/10a (200～700ml/m ²)	収穫前日まで	3 回以内	
なし	アブラムシ類、カメムシ類、コナ カイガラムシ類、シクイムシ類					
もも	アブラムシ類、カメムシ類、シ クイムシ類、モモハモグリガ			収穫 7 日前まで		
	コガネムシ類	2,000倍				
すもも	カメムシ類	2,000～4,000倍		収穫 3 日前まで	2 回以内	
	アブラムシ類	4,000倍				
おうとう	カメムシ類、オウトウ ショウジョウバエ	2,000倍		収穫前日まで	3 回以内	
うめ	ケシキスイ類	2,000～4,000倍		収穫 3 日前まで		
	アブラムシ類、カメム シ類、ケムシ類			収穫前日まで		
ぶどう	コナカイガラムシ類、 チャノキイロアザミウマ、 フタテンヒメヨコバイ、カ メムシ類、コガネムシ類			2,000～4,000倍	収穫 7 日前まで	
かんきつ	アブラムシ類、カメムシ 類、コナカイガラムシ類、ミ カンハモグリガ、アザミウマ 類、コアオハナムグリ、ツノ ロウムシ、ゴマダラカミキ リ、アゲハ類、アカマルカ イガラムシ、ケシキスイ類	収穫 7 日前まで				
	ミカンバエ、ミカンキジラミ	2,000倍			収穫 150 日前まで	本剤：1 回、クロチアニジン：4 回以内(樹 幹散布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ミカンハモグリガ	20倍				
	ミカンキジラミ	40倍				
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	20倍	10～100ml/樹	春芽・夏芽又は秋 芽の発生前	3 回以内	樹幹散布
かき	カキノヒメヨコバイ	4,000倍	200～700ℓ/10a (200～700ml/m ²)	収穫 7 日前まで		3 回以内
	カメムシ類、コナカイガラムシ類、 カキノハタムシガ、アザミウマ類					
マンゴー	コナカイガラムシ類、 アザミウマ類	2,000～4,000倍		収穫 3 日前まで		
いちじく	アザミウマ類					
ネクタリン	アブラムシ類、カメムシ類、シ クイムシ類、モモハモグリガ	2,000倍		収穫 45 日前まで		
	コガネムシ類				2,000倍	
あんず	アブラムシ類	4,000倍		2 回以内		
パパイヤ	ナガカタカイガラムシ ヒラタカタカイガラムシ	2,000倍				
ブルーベリー	アブラムシ類	2,000～4,000倍	発生初期	4 回以内	生育期株元灌注	
	ケムシ類					
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ	2,000倍	1ℓ/m ²	生育期	樹幹散布	
ばら	アブラムシ類	2,000～4,000倍	100～300ℓ/10a (100～300ml/m ²)	発生初期	4 回以内	散布
	ミカンキイロアザミウマ					
きく	アザミウマ類	2,000倍	1ℓ/m ²			
	アブラムシ類、カメム シ類、ハモグリバエ類	2,000～4,000倍				
花き類・観葉植物 (ばら、きくを除く)	アブラムシ類	4,000倍	100～300ℓ/10a (100～300ml/m ²)	生育期	樹幹散布	
つつじ類	ツツジゲンバイ	2,000～4,000倍	100～300ℓ/10a (100～300ml/m ²)	生育期	樹幹散布	
げっきつ	ミカンキジラミ	40倍	200ml/樹	生育期	樹幹散布	

Q4 害虫に対する効果を教えてください。

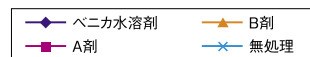
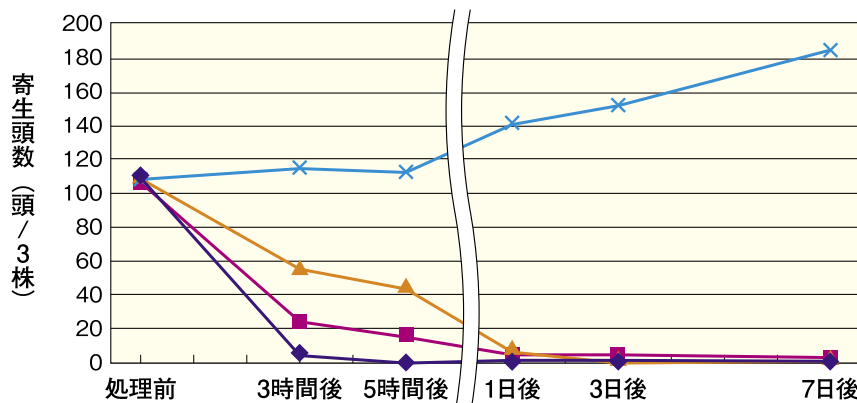
試験事例は以下の通りです。

試験事例-1 バラミドリアブラムシ(ばら)

速効性 すばやく退治する接触効果があります。

ベニカ水溶剤は、処理5時間後にアブラムシの生存頭数は0頭になりました。

バラミドリアブラムシに対する効果



試験期間:2010/12/17 ~ 12/24

供試虫:バラミドリアブラムシ 放虫日:11/5、11/8、11/12(弊社製品開発センター採集個体)

供試植物:ばら(品種:ババメイアン)4年生 樹高:約70cm

供試薬剤:ベニカ水溶剤 2000倍、A剤 2000倍、B剤 1000倍

※展着剤ダイノ0.3ml/ℓ添加

散布時状況:気温 23.2℃、湿度 30%、天候 晴

試験方法:対象害虫発生株に供試薬剤を蓄圧式噴霧機にて十分量噴霧処理した。

試験規模:1区2株 2反復

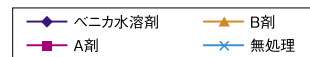
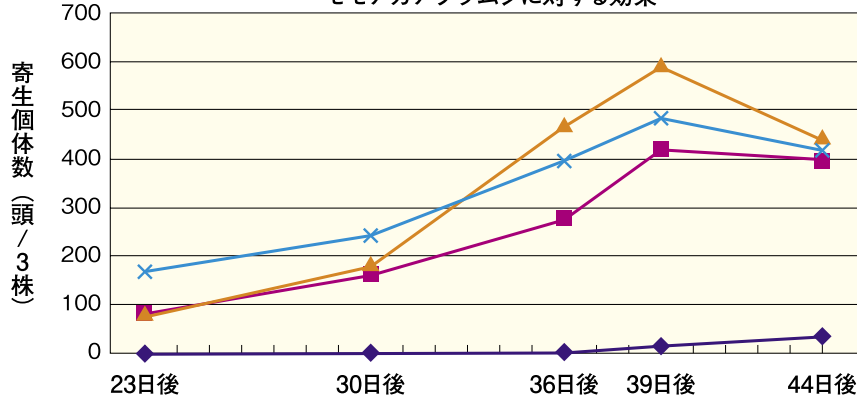
試験場所:静岡県浜松市 弊社研究開発部製品開発センターガラス温室内(最低気温15℃)

試験事例-2 モモアカアブラムシ(なす)

持続性 効果の持続性があります。

効果は約1ヵ月間持続します。散布36日後まで成虫個体数は0頭でした。

モモアカアブラムシに対する効果



試験期間:2011/6/20 ~ 8/3

供試虫:モモアカアブラムシ

供試植物:なす(品種:黒陽)6号鉢 播種日:4/7

定植日:5/26(7葉期)

供試薬剤:ベニカ水溶剤 2000倍、A剤 2000倍、B剤 1000倍

※展着剤ダイノ0.3ml/ℓ添加

散布時状況:気温 28.2℃、湿度 30%、天候 晴

試験方法:供試薬剤を供試植物に蓄圧式噴霧機にて十分量噴霧処理した。処理2週後より1週間毎にアブラムシを10頭/株ずつ放虫した。

(放虫日は7/5、7/13、7/20、7/26、8/3)

試験規模:1区3株 2反復

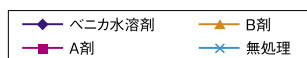
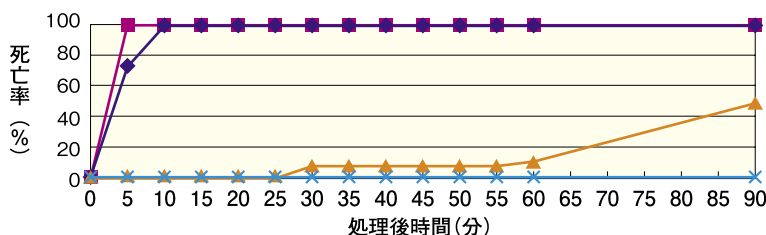
試験場所:静岡県浜松市 弊社研究開発部製品開発センターガラス温室内

試験事例-3 チャバネアオカメムシ

速効性 すばやく退治する接触効果があります。

散布10分後に死亡率は100%になりました。

チャバネアオカメムシに対する効果



試験期間:2011/5/18 ~ 5/19

供試虫:チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、シラホシカメムシ

供試薬剤:ベニカ水溶剤 2000倍、A剤 2000倍、B剤 1000倍

(B剤にはカメムシ登録無し)※展着剤ダイノ0.3ml/ℓ添加

試験方法:ろ紙を敷いたプラスチックカップ(直径9.5cm×9.0cm)に供試虫を各5頭放虫後、供試薬剤を十分量散布処理し、フタをして死亡するまでの時間を調査した。

試験規模:1区5頭 3反復

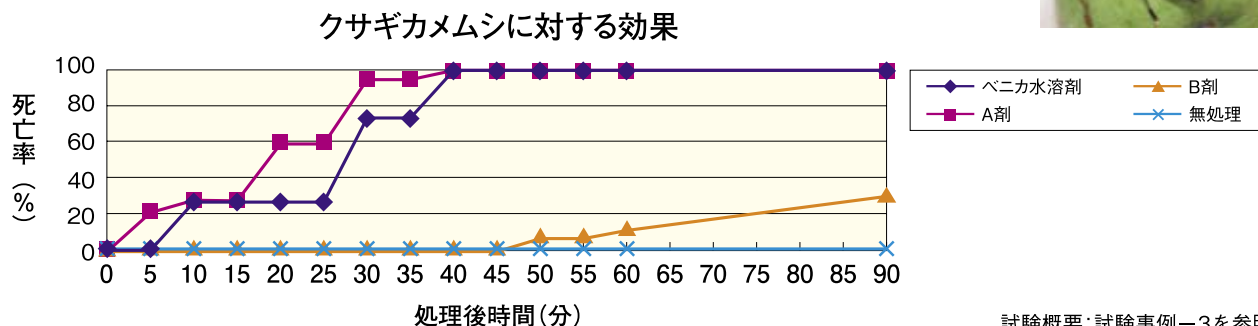
試験場所:静岡県浜松市 弊社研究開発部製品開発センター



試験事例-4 クサギカメムシ

速効性 すばやく退治する接触効果があります。

散布10分後より効果があらわれ、40分後に死亡率は100%になりました。

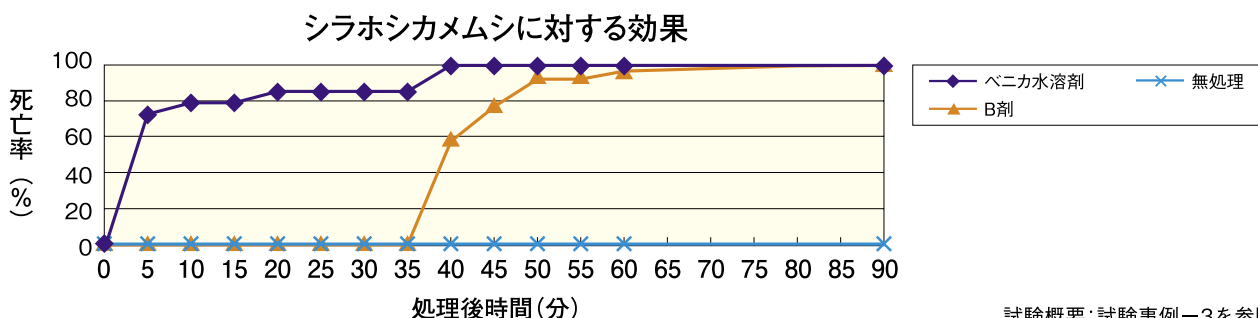


試験概要: 試験事例-3を参照

試験事例-5 シラホシカメムシ

速効性 すばやく退治する接触効果があります。

散布5分後より効果があらわれ、40分後に死亡率は100%になりました。

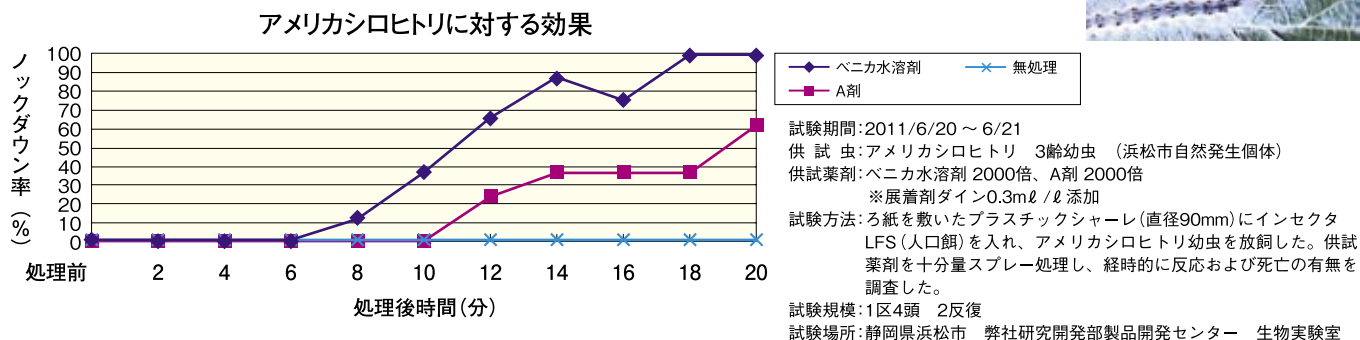


試験概要: 試験事例-3を参照

試験事例-6 アメリカシロヒトリ

速効性 すばやく退治する接触効果があります。

散布8分後より効果があらわれ、18分後にノックダウン率は100%になりました。

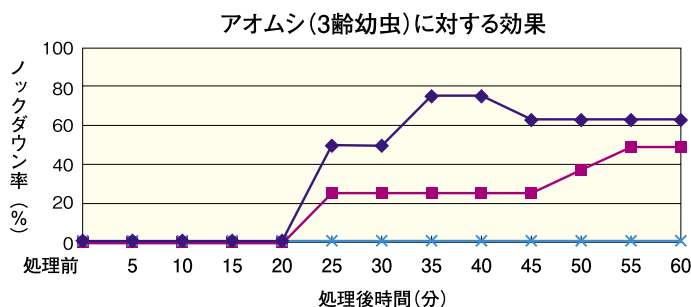


試験事例-7 アオムシ(3齢幼虫)

3齢幼虫には、摂食の忌避効果は確認できましたが、死亡率は低いです。(散布4日後で12.5%)

若齢幼虫(1～2齢:体長2mm～1cm以下)に対する使用が効果的で、アオムシには発生前～発生初期の散布を基本としてください。

(参考) アオムシの齢と体長 3、4 齢……………1～3cm
5 齢……………4cm 以上



試験期間:2011/5/26～5/30
供試虫:アオムシ(モンシロチョウ)3齢幼虫(浜松市自然発生個体)
供試植物:キャベツ
供試薬剤:ベニカ水溶液 2000倍、A剤 2000倍
※展着剤ダイノ0.3mℓ/ℓ添加
散布時状況:温度 25.9℃、湿度 28%、天候 晴
試験方法:ろ紙を敷いたプラスチックシャーレ(直径90mm)にキャベツの葉を入れ、供試虫を放飼した。供試薬剤を十分量スプレー処理し、経時的に反応および死亡の有無を調査した。
試験規模:1区4頭 2反復
試験場所:静岡県浜松市 弊社研究開発部製品開発センター 生物実験室

Q5 人畜や環境に対する安全性情報を教えてください。

安全性に関するデータは以下のとおりです。参考にしてください。

- 人畜毒性:普通物相当^(※1)
- 急性経口毒性^(※2) LD₅₀:ラット♂♀ >5,000mg/kg
LD₅₀:マウス♂ 3,423mg/kg
♀ 3,657mg/kg
- 急性経皮毒性^(※3) LD₅₀:ラット♂♀ >2,000mg/kg
- 眼刺激性:軽度の刺激性あり(ウサギ)
- 皮膚刺激性:刺激性なし(ウサギ)
- 皮膚感作性:感作性なし(モルモット)
- 水産動植物に対する影響 コイ LC₅₀(96hr)^(※4) 59.0mg/ℓ
オオミジンコ EC₅₀(48hr)^(※5) >130mg/ℓ
藻類 ErC₅₀(0-72hr)^(※6) 410mg/ℓ

※1 農薬は毒性の強い順に特定毒物、毒物、劇物、普通物の4種類に分けられます。(普通物は毒劇物に該当しないものを指している通称です。)

※2 LD₅₀:半数致死薬量。薬物の投与実験で、50%の個体を死に至らしめる薬物量。供試動物の単位重量当りの薬物重量(mg/kg、μg/g)で表わす。
(毒物:LD₅₀ 値50mg/kg以下、劇物:LD₅₀ 値50mg/kgを超え300mg/kg以下)

※3 (毒物:LD₅₀ 値200mg/kg以下、劇物:LD₅₀ 値200mg/kgを超え1,000mg/kg以下)

※4 LC₅₀:半数致死濃度。薬物を接触させたり、投与する実験で、50%の個体を死に至らしめる薬剤濃度。

※5 EC₅₀:一定条件下で供試生物の50%に何らかの影響(生育阻害、遊泳異常など)を起こさせる薬物濃度。

※6 ErC₅₀:一定条件下で供試生物の50%に生長阻害等を起こさせる薬物濃度。



使用上の注意点があれば教えてください。

ベニカ水溶剤の使用上の注意事項です。実際の使用に際しては必ずラベルをよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

【効果・薬害等の注意】

- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
- ぶどうに使用する場合、袋かけ前までの幼果期に散布すると品種によっては果粉が溶脱する恐れがあるので注意してください。
- かんきつに樹幹散布で使用する場合は、樹幹部から地際部に十分量を散布または塗布してください。また、散布液が葉にかかると薬害を生ずる恐れがありますので、葉にかからないように十分に注意してください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましいです。

【安全使用上の注意】

- 体調のすぐれない時は薬剤散布を行わないでください。
- 本剤は眼に対して刺激性がありますので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

【環境に対する注意】

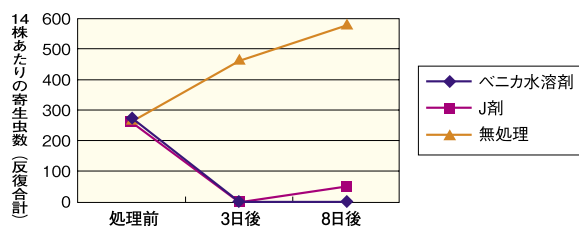
- 蚕に対して影響がありますので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響がありますので、以下のことに注意してください。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - ③ 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めてください。
- マルハナバチに影響を及ぼすおそれがありますので注意してください。

【保管上の注意】

- 飲食物・食器類やペットの餌と区別し、直射日光をさけ、密封して、小児の手の届かない冷涼で乾燥した場所に保管してください。

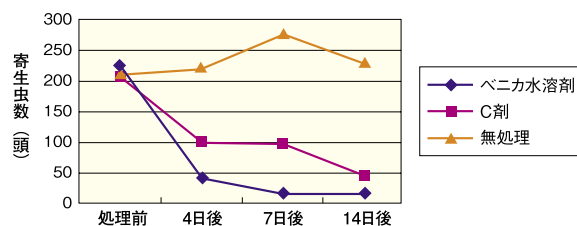
委託試験成績の紹介(抜粋)

① しゅんぎくのアブラムシに対する防除効果



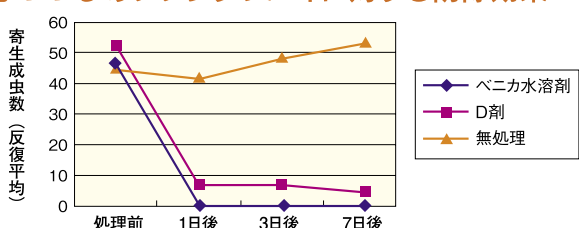
供試植物：しゅんぎく（株張り中葉新菊）
 処理日：2004/10/29
 希釈倍数：2000 倍
 発生状況：モモアカアブラムシ 少発生
 規模：1 区 5.4㎡（2m × 2.7m、36 株）3 連制
 試験場所：日本植物防疫協会研究所

② トマトのオンシツコナジラミに対する防除効果



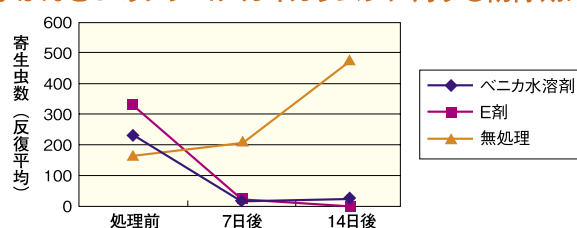
供試植物：トマト（華クイン）
 処理日：1999/8/20
 希釈倍数：4000 倍
 発生状況：オンシツコナジラミ 多発生
 規模：1 区 23㎡（23 本）2 区制
 試験場所：福井県植物防疫協会

③ つつじのツツジグンバイに対する防除効果



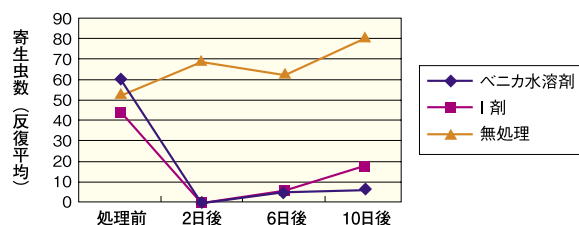
供試植物：クルメツツジ（暮の雪）
 処理日：2005/6/7
 希釈倍数：4000 倍
 発生状況：ツツジグンバイ 中発生
 規模：1 区 5 株 3 反復
 試験場所：埼玉県農林総合研究センター園芸研究所
 深谷試験地

④ かんきつのフジコナカイガラムシに対する防除効果



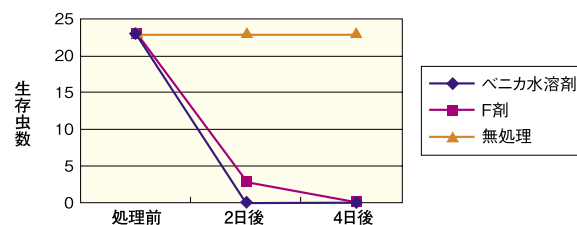
供試植物：かんきつ（興津早生）
 処理日：2000/6/13
 希釈倍数：4000 倍
 発生状況：フジコナカイガラムシ 中発生
 規模：1 区 1 樹 3 反復
 試験場所：大分県柑橘試験場

⑤ えだまめのカメムシに対する防除効果



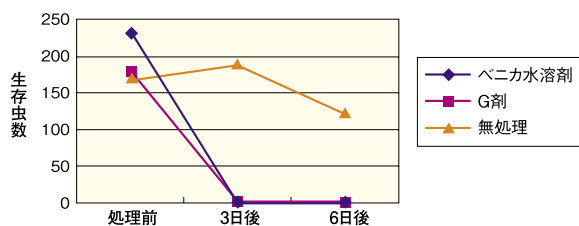
供試植物：えだまめ（石川 1 号）
 処理日：2003/7/22
 希釈倍数：2000 倍
 発生状況：マルカメムシ 中発生、ホソヘリカメムシ 少発生
 規模：1 区 3.0㎡ 2 区制（各区 25 株）
 試験場所：兵庫県植物防疫協会

⑥ ぶどうのコガネムシ類に対する防除効果



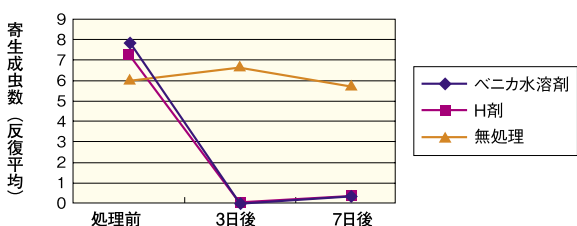
供試植物：ぶどう（デラウェア）
 処理日：2009/7/11
 希釈倍数：2000 倍
 発生状況：マメコガネ成虫 多発生
 規模：1 区 8.4㎡（4.2m × 2.0m）連制なし
 試験場所：日本植物防疫協会研究所 山梨試験地

⑦ ブルーベリーのアメリカシロヒトリに対する防除効果



供試植物：ブルーベリー（ブリギッダ、ブルーヘブン、あまつぶ星、ダロウ、カロライン、パトリオット）
 処理日：2008/5/27
 希釈倍数：4000 倍
 発生状況：アメリカシロヒトリ 中発生
 規模：1 区 1 鉢 3 連制
 試験場所：日本植物防疫協会研究所 山梨試験地

⑧ すいかのウリハムシに対する防除効果



供試植物：すいか（夏武輝）
 処理日：2004/6/12
 希釈倍数：2000 倍
 発生状況：ウリハムシ 中発生
 規模：1 区 12㎡（3 株）3 区制
 試験場所：福井県植物防疫協会



あしたを育てる。

住友化学園芸株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-4

●商品についてのお問い合わせ先 TEL:03(3551)1128
(9:30~12:00/13:00~16:30/土、日、祝日を除く)

住友化学園芸ホームページ
eグリーンコミュニケーション®
www.sc-engei.co.jp

植物の気になる症状などから虫や病気を判断し、有効薬剤までナビゲート!

 **携帯版病害虫ナビはこちらから** →
<http://m.sc-engei.co.jp> (通信料がかかります)



この印刷物の記載内容は2011年10月現在の内容です。

11.11.1